

4. 「スポーツ・ウェルネス・シティ」プロジェクト



- 誰もがいきいきとスポーツに親しみ、ウェルネスを実現できるよう、最先端技術等を有する民間企業等との連携など、DXの推進によるスポーツを核とした新たな価値や魅力を創出

スポーツを核とした新たな価値や魅力を創出する

身近な地域で
スポーツを通じたウェルネスを実現

健康増進・
生きがいづくり
世代を超えた
人と人のつながり
地域の活性化

身近な地域でスポーツをするきっかけをつくる

- ・東京の資源を最大限活用し、身近な場所でスポーツできる環境を創出
- ・公開空地等を活用したプロモーションを実施
- ・気軽に参加できるウォーキング等の普及



DXを推進し、継続的にスポーツができる仕掛けをうつ

◆多様な主体と連携し、斬新なアイデアを取り込む

- ・スタートアップ等の斬新なアイデアや最先端技術を活用し、誰もが気軽にスポーツに親しみ、運動習慣を定着できるコンテンツを創出
- ・民間企業等の健康増進に関する優れた取組を発信



◆いつでも、どこでもスポーツとつながる環境を構築

- ・スポーツ教室の動画等をオンラインで配信
- ・AR等を活用したバーチャルなスポーツ体験機会を提供

東京2020大会の競技施設が集積する有明レガシーエリアで
スポーツを通じたウェルネスを実現

3か年のアクションプラン(主要)

具体的な取組	2020年度末 (見込み)	年次計画		
		2021年度	2022年度	2023年度
有明アーバンスポーツパーク (仮称)の整備・運営		調査・検討、事業者公募・一部開業		
		設計・工事		
有明親水海浜公園(仮称) の整備・開園		有明アリーナ周辺部開園		
		設計・工事		
				記念公園として拡張開園

2030年への展開

- スポーツを核とした新たな価値や魅力を創出し、スポーツに取り組む仕掛けを拡大【2030年】
- 有明レガシーエリアでスポーツを通じたウェルネスを実現【2030年】

戦略19 オリンピック・パラリンピックレガシー戦略

オリンピック・パラリンピックのレガシーを、都市のレガシーとして発展させ、都民の豊かな生活につなげる



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を、新型コロナを乗り越え、成功に導くため、東京の総力を挙げ、全力で準備を進めている。

東京2020大会をオリンピック・パラリンピックの新たなモデルとして示していくとともに、ハード・ソフト両面に渡る様々な対策を、都市のレガシーとして発展させ、都民の豊かな生活につなげていく。

オリンピック・パラリンピックのレガシーを、都市のレガシーへと発展させる

- ・ 新型コロナの影響を受け1年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を、希望のあかりを皆で灯せる大会とするべく、感染症対策をはじめ、アスリート・観客・ボランティア等、誰もが安心できる大会運営のための準備を着実に講じていく。また、原点である復興オリンピック・パラリンピックとして、成功へと導いていく。
- ・ 組織委員会、国、IOC、IPCをはじめとする関係者、都議会、都民の皆様と一体となり、「サステナブル・リカバリー」を目指すオリンピック・パラリンピックの新たなモデルを示すべく、全力で取り組んでいく。
- ・ 2度目の夏季パラリンピックを開催する世界初の都市として、パラスポーツの魅力を多くの人に伝えるとともに、あらゆる面でのバリアを取り除き、多様性と包摂性にあふれるまちを築き上げていく。
- ・ 大会までの貴重な「プラス1」の日々を生かし、万全な準備を進めていく。そして、大会に向けて進めてきたハード・ソフト両面に渡る多面的な取組に加え、感染症対策などの危機管理の取組もレガシーとして引き継ぎ、都市のレガシーとして発展させ、都民生活の向上をもたらしていく。

東京2020大会に向けた取組

安全・安心	
まちづくり	教育・多様性
スポーツ・健康	環境・持続可能性
参加・協働	経済・テクノロジー
文化・観光	被災地復興支援

東京2020大会後

都市のレガシーとして発展

大会に向けて講じた万全な新型コロナ対策の経験を、今後の感染症対策に生かし、都民の安全・安心な暮らしを実現

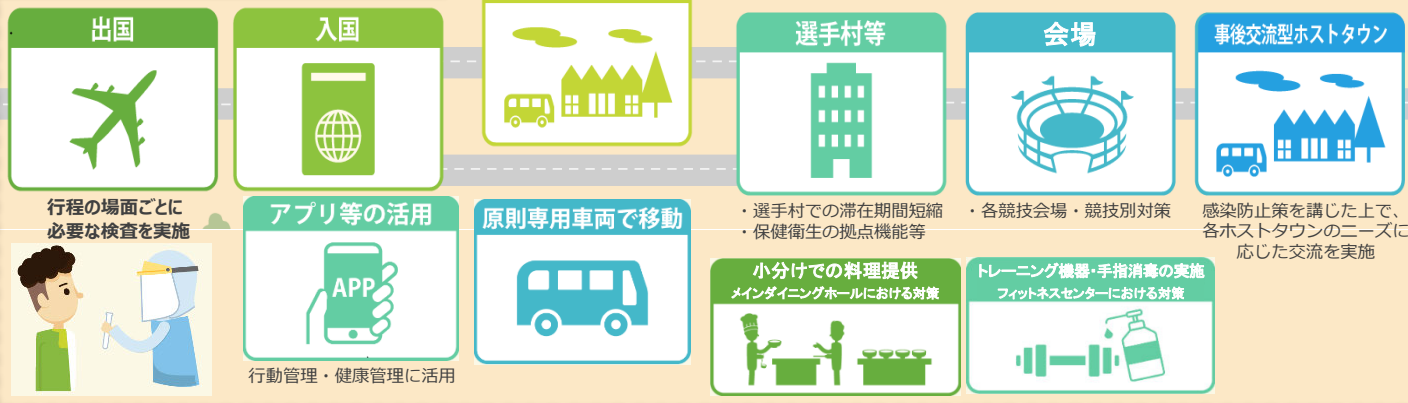
安全・安心な大会に向けた新型コロナ対策

「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」における検討を踏まえ、関係機関と連携し、大会に向け必要な感染症対策を実施

主な取組

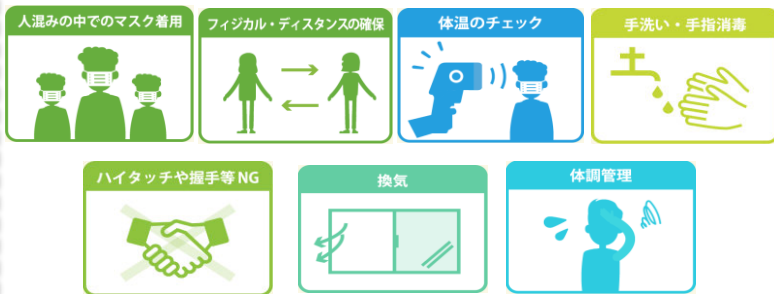
- 飛沫感染防止 ● 3密の回避 ● 消毒の徹底
- 体調不良者発生時の対応
- アプリ等による行動管理・健康管理
- アスリート、大会関係者、ボランティア、観客に関する感染症対策
- 聖火リレー、ライブサイト、ホストタウン、事前キャンプにおける感染症対策 など

入国から出国までの環境整備 (アスリート等)



基本的行動ルール例

感染予防の取組をHP等で広く発信



会場における観客の感染症対策

- ・ガイドラインの策定・周知
- ・場内アナウンス等周知徹底



保健・医療など関係機関との連携体制構築

- ・アスリート等の入国から出国までのトータルでの環境整備
- ・地域の保健・医療機関等との連携
- ・組織委員会感染症対策センター（仮称）の設置等、都や関係機関との連携の下、大会に係る感染症対策を一元的に推進

感染症対策におけるDXの推進

- ・アプリ等を活用した行動管理・健康管理
- ・最先端技術を導入した混雑緩和策
- ・ボランティアのオンライン研修

感染予防の取組が広く普及

- ・基本的なルールに基づく行動様式の普及啓発
- ・感染予防の取組の効果的な情報発信

大規模国際イベントの開催ノウハウ

- ・入国から出国までの行程における各場面ごとに必要な検査を実施
- ・各競技会場や競技に応じたルールの策定
- ・ボランティアの感染予防マニュアルの作成・運用

大会の経験を生かし都民の安全・安心な暮らしを実現

オリンピック・パラリンピックに向けた取組を通じ、 「サステナブル・リカバリー」を実現

環境に配慮した持続可能な大会の実現、感染症対策などの安全・安心な大会運営など、**大会を通じて「サステナブル・リカバリー」の視点からの取組を進め、**人々の持続可能な生活を実現

環境に配慮した持続可能な大会モデルの創出

- サービス水準の最適化など、**簡素な大会**に向け、効率化・合理化を推進
- 大会時の選手村において、**福島県産CO₂フリー水素**を活用
- 省エネ**の推進と**再エネ**の導入拡大
- 持続可能な資源利用**の定着化を促進
- 開会式・閉会式の合計4日分の**都内で排出されるCO₂を実質ゼロ**に（東京ゼロカーボン4デイズ in 2020）
- 復興モニュメントに被災地の仮設住宅の**廃材アルミ**を活用



感染症対策を通じて、 安全・安心な大会を実現

- アスリート等の**行動管理・健康管理**にアプリ等を活用
- 飛沫感染防止策・接触感染防止策・混雑緩和策**などを徹底
- ロボット**を活用した「宿泊療養施設等の感染症対策に向けた実証実験」を実施



客室への物資搬送ロボット

芸術・文化・スポーツを 続けられる環境の整備

- コロナ禍で**文化の灯を絶やさな**い取組を実施
- デジタルツールの活用**などにより、「新しい日常」に対応したスポーツ実施を推進

アートに**エール**を！
Support Program for Arts and Culture

「新しい日常」における 新たなワークスタイルを定着

- テレワーク・時差Biz・TDMを**スムーズBiz**として一体的に推進
- TOKYOテレワークアプリ**を活用し、テレワーク情報を発信



テレワークアプリ

様々な交流を通じて、被災地復興を支援

- スポーツ・教育・文化などを通じ、被災地との**様々な交流を創出**
- 大会に向けた気運醸成で**被災地を活性化**



東京2020ライブサイト in 2016
-リオから東京へ-（宮城会場）

デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、 大会後のレガシーとして社会に定着

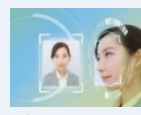
5Gを活用した会場運営など、**東京2020大会を先端技術のショーケース**とすることで、**大会を契機にDXの推進**を加速し、「新しい未来の東京」を切り拓く

スマートな大会運営を支える 様々な環境整備を推進

- ラストマイルカメラシステム**により雑踏事故の未然防止や事件事故等に迅速に対応
- 顔認証システム**により大会会場への入場をスムーズに



ラストマイルカメラ



顔認証システム

- 「TOKYO FREE Wi-Fi」をはじめとした**無料Wi-Fiスポット**を整備
- デジタルサイネージ**により多言語で情報を提供



無料Wi-Fi



デジタルサイネージ

大会を支えるボランティアの育成に オンラインを活用

- シティキャスト向けに**パソコンやスマートフォンから受講できるオンライン研修**を実施



シティキャスト オンライン研修の様子

5Gやロボットなど 最先端テクノロジーの実用化を推進

- 東京2020大会**ライブサイト代々木公園会場**における**5G**を活用した会場運営



ライブサイト（イメージ）

- 「Tokyo Robot Collection」を実施し、**ロボット**を活用した新しい社会実装モデルをショーケース化
- 自動運転の社会実装**に向けた実証実験や機運醸成事業を実施



AIによるコミュニケーションロボット
（多言語対応）



スポーツの新たな楽しみ方を創出

- 5GやAR**などの最先端技術を活用し、スポーツを楽しめる機会を創出
- 高密度Wi-Fiなどを導入し、**有明アリーナを最先端スマートアリーナ**に



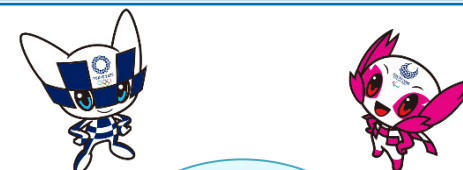
快適な観戦に向けた通信環境の提供

オリンピック・パラリンピックの新たなモデルに

「都市のレガシー」として定着

- ◆東京の総力を挙げ、東京2020大会への準備を全力で進め、新型コロナを乗り越え、成功に導く。
- ◆大会に向けたハード・ソフト両面に渡る多面的な取組を、都市のレガシーとして発展させ、都民の豊かな生活につなげていく。

安全・安心	大会に向けて積み重ねてきたハード・ソフトの対策が、都民の安全・安心な暮らしを実現	ラストマイルでの取組等
まちづくり	大会の感動を生んだ競技会場を、都民に愛されるスポーツやエンターテインメントのシンボルに	都内の競技会場等
スポーツ 健康	スポーツを「する」「みる」「支える」を日常に定着、都民の健康増進・QOL向上を実現	スポーツを「する」「みる」「支える」等
	パラリンピックに向けた多面的な取組の継承・発展により、パラスポーツを人気コンテンツに	障害者スポーツ振興
参加・協働	「オール東京」で大会を盛り上げた感動の記憶を、東京を支える次世代に刻み込む	各種プログラム等
	ボランティアマインドを東京中に広げ、人と人のつながりを大事にするまちを実現	シティキャスト等
文化・観光	「文化の祭典」を成功させた経験を、ポストコロナの新たな楽しみや喜びの創出に結実	Tokyo Tokyo Festival等
	誰もが安心して観光を楽しめ、何度でも訪れたい国際観光都市へと飛躍	外国人旅行者の受入環境整備等
教育 多様性	未来を担う世代が、オリンピック・パラリンピックの精神を継承	オリンピック・パラリンピック教育等
	多様性と包摂性を高める様々な取組を通じて、真の共生社会を実現	障害者差別解消条例等
環境 持続可能性	大会での再エネ・水素の活用等を契機に、ゼロエミッション東京の実現に向けた取組を加速	ゼロエミッション東京
経済 テクノロジー	スムーズビズを定着させ、生産性向上などを図り、人々がいきいきと働き、活躍できる社会を実現	スムーズビズ等
	大会を通じて生まれた経済効果を最大限に生かし、東京ひいては日本経済の持続的発展に貢献	ビジネスチャンス・ナビ等
	5Gやロボットなどの最先端テクノロジーを活用したスマートな大会運営を通じ、「スマート東京」の実現を加速	5G等
被災地 復興支援	大会を契機に被災地の復興の姿を世界に届け、被災地との絆を次代に引き継ぐ	被災地復興支援



東京2020大会を
オリンピック・
パラリンピックの
新たなモデルに

都市のレガシー
として発展させ、
都民の生活を豊かに



大会に向けて積み重ねてきたハード・ソフトの対策が、都民の安全・安心な暮らしを実現

競技会場周辺における、ハード・ソフト両面の取組

ラストマイルカメラシステム

- 雑踏事故の未然防止や事件事故等に迅速に対応



顔認証システム

- 大会関係者の顔画像等を事前に登録し、大会会場の入場をスムーズに



感染症対策



① ラストマイルにおける観客のルール・マナーの作成と周知

- ・飛沫感染防止 ・3密の回避 ・暑さ対策との両立
- ・感染リスクの高い行為を抑える

② 観客へのルールの徹底と感染防止のための環境整備

- ・混雑箇所での注意喚起の徹底
- ・不特定多数が利用する設備の消毒徹底

③ 体調不良者発生時の対応

- ・体調不良者の救護フローの策定
- ・陽性者発生時の迅速な対応

シティキャスト



- 観客への競技会場までの案内やサポート等を実施（感染予防マニュアルを作成し、安全・安心な活動を確保）
- 感染症や暑さに関する注意喚起・呼びかけも実施

鉄道駅のバリアフリー化



- ホームドア整備を促進し、安心して快適に移動できる環境を実現
- エレベータ整備等により、ホームから駅出入口まで段差なく移動できるルートを確認
- トイレの洋式化等に取り組む鉄道事業者等を支援

道路のバリアフリー化



- 高齢者や障害者を含めた誰もが円滑に移動できるよう、歩道の段差解消・勾配改善、視覚障害者誘導用ブロックを設置

無電柱化の推進



無電柱化前



無電柱化後

- 歩道内の電柱がなくなることで、都市景観が向上
- ベビーカーや車いすも移動しやすい歩行空間を確保
- 災害発生時の電柱倒壊による道路閉塞の防止や電線類の被災が軽減し、ライフラインの安定供給を確保

暑さ対策



- クールエリア・クールスポットの創出
- 遮熱性舗装・保水性舗装を整備
- 街路樹の計画的なせん定による樹形拡大で緑陰を確保
- 日除け、送風機、給水設備等を備えた休憩所を設置
- 扇形紙製チラシ（うちわ類）やネッククーラーなどを配布



PSA：歩行者スクリーニングエリア

救護対応



- 傷病者を早期に適切な医療につなげるため、救護所の設置、車両の活用や近隣医療機関との連携による救護対応を実施

案内サイン



- 文字の大きさ等に配慮するとともに、ピクトグラムや多言語で表示した仮設案内サインを設置

Wi-Fi



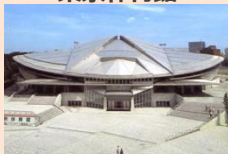
- 競技会場までの行き方や交通機関の運行情報を収集できるよう、インターネットに接続可能な環境整備を促進
- 大会期間中は休憩所等にも仮設Wi-Fiを設置

大会の感動を生んだ競技会場を、都民に愛されるスポーツやエンターテインメントのシンボルに

大規模な国際大会の開催など 世界に誇れるスポーツ拠点に

- 国立スポーツ施設も含め、再編・整備が進む既存施設を中心に**スポーツクラスターを形成**
- バリアフリー環境が整った施設やアクセスで、**誰もが使いやすい施設に**

東京体育館



国立競技場

(2019年11月竣工)



国立代々木競技場



写真提供：
独立行政法人日本スポーツ振興センター

写真提供：
独立行政法人日本スポーツ振興センター

アーバンスポーツや最先端技術の導入による 新たな体験・観戦機会の創出

- 大会仮設施設を活用し、**有明アーバンスポーツパーク（仮称）を整備**
- 5GやARなどの最先端技術を活用し、**有明アリーナを最先端スマートアリーナに**
- 有明親水海浜公園（仮称）を整備・拡張し、広くスポーツに親しむ**記念公園に**
- 魅力的な水辺空間**で、大会関連施設を中心に、商業施設とも連携した様々なイベントを開催するなどにより、**にぎわいを創出するエリアに**

有明アーバンスポーツ
パーク（仮称）



(東京2020大会時のイメージ)

有明テニスの森公園
テニス施設



有明アリーナ

(2019年12月竣工)



冬季スポーツをはじめ多様なスポーツが 実施可能になりスポーツの裾野が拡大

- 東京辰巳国際水泳場を都立初の**通年アイスリンクへ転換**
- 隣接する公園等と連携**した大規模大会・イベントの開催などにより、都民の**多様なスポーツ活動の拠点に**

東京辰巳国際水泳場

(通年アイスリンクへ転換)



東京アクアティクスセンター

(2020年2月竣工)



大井ふ頭中央海浜公園
ホッケー競技場

(2019年6月竣工)



夢の島公園アーチェリー場

(2019年2月竣工)



多摩地域のスポーツ拠点として スポーツに親しめる環境を創出

- ラグビーワールドカップ2019™会場となった東京スタジアム、武蔵野の森総合スポーツプラザ、周辺の公園を一体として**多摩地域のスポーツ拠点に**
- 東京スタジアム内の室内施設を**パラスポーツ練習拠点**としての活用を検討

武蔵野の森
総合スポーツプラザ

(2017年3月竣工)



東京スタジアム



選手村

(2019年12月大会時に
必要な部分の整備完了)



大会後のレガシーとなるまちづくりを推進

- 都心と臨海地域を結ぶ**BRTの運行を開始**し、アクセスを強化
- 自転車シェアリングの促進**や自転車通行空間の整備などによる回遊性の向上
- 船着場の整備等により、**舟運活性化**の取組を推進

水上スポーツ・レジャー体験の 新たな機会を提供

- ボート、カヌー、ラフティング、ヨットなど、**様々な水上スポーツを総合的に楽しめるエリアに**

海の森水上競技場

(2019年5月竣工)



カヌー・スラロームセンター

(2019年5月竣工)



戦略19 オリンピック・パラリンピックレガシー戦略

スポーツを「する」・「みる」・「支える」を日常に定着、都民の健康増進・QOL向上を実現

スポーツを「する」

スポーツ博覧会・東京



TOKYOウオーク



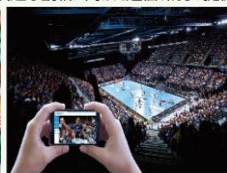
- ・スポーツ博覧会など都民参加型イベントの開催や身近なスポーツ環境の整備を推進
- ・コロナ禍においては、TOKYOウオークを、スマートフォンアプリで実施するなど、「新しい日常」に対応した形式も採用
- ・DXの推進など、リアルとバーチャルのハイブリッドでスポーツを継続するための仕掛けを展開

スポーツを「みる」

国際スポーツ大会



快適な観戦に向けた通信環境の提供



- ・国際大会を誘致段階から支援するなど、トップレベルのスポーツ大会の観戦機会を創出
- ・ARなど最先端技術を活用したスポーツ観戦の新たな楽しみ方を創出
- ・都立のアリーナ等を有するスポーツ施設において、大会等を映像配信できる環境を構築

スポーツを「支える」

東京マラソンのボランティア



シティキャスト



©東京マラソン財団

- ・様々なスポーツイベントにおいてボランティアの活躍の場を提供
- ・障害者への対応など幅広い分野の研修を実施し、質の高いシティキャストを育成
- ・「ボランティアレガシーネットワーク(仮称)」等を通じて、プッシュ型で情報を発信

スポーツを通じたQOLの向上

2020年4月受動喫煙防止条例の全面施行に伴い、受動喫煙防止対策を推進

健康への悪影響を未然に防止し、誰もが快適に過ごせるまちへ

東京都

東京都受動喫煙防止条例



受動喫煙防止対策 解説動画

パラリンピックに向けた多面的な取組の継承・発展により、パラスポーツを人気コンテンツに

東京2020大会に向けて、パラスポーツの普及啓発を強力に展開し、パラリンピック・ムーブメントを創出

TOKYO発のチームで盛り上げ

TEAM BEYOND観戦会



日本を代表する漫画家が描いたパラアスリートを活用した展開



- ・パラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」を核に、パラスポーツファンの裾野を拡大する取組を展開
- ・個人はもとより、企業・団体などあらゆるジャンルを超えて、約130万人がメンバーに

体験プログラムを東京全域で展開

NO LIMITS CHALLENGE



NO LIMITS SPECIAL 2020



- ・パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を都内全域で開催
- ・特別版として「NO LIMITS SPECIAL」を開催(「NO LIMITS SPECIAL2020」は2日間で約4万6000人の方がご来場)
- ・障害の有無に関わらず、多くの方に競技体験機会を提供するとともに、パラリンピックの魅力をPR

パラスポーツの魅力を広く発信

東京2020パラリンピックの成功とバリアフリー推進に向けた懇談会



障害者スポーツの国際大会の開催支援



- ・パラアスリート・学識経験者・各界で活躍されている方々をメンバーとする懇談会を設置。メンバーは「パラ応援大使」として、パラスポーツの魅力やバリアフリーの推進について広く発信
- ・東京2020大会に向けた気運醸成の取組等を通じて得たノウハウも生かしながら、障害者スポーツの国際大会の開催を支援

多面的な取組の継承・発展

障害者のスポーツ環境を着実に整備

パラスポーツの人気コンテンツ化

障害の有無に関わらずパラスポーツを楽しむための取組を推進

パラスポーツをできる場の確保

パラスポーツを支える人材の育成

パラスポーツの競技力向上

「オール東京」で大会を盛り上げた感動の記憶を、東京を支える次世代に刻み込む

都民一人ひとりが
東京2020大会と
つながりを持てるよう
多彩なプログラムを展開

オリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグを 各地でお披露目



東京2020大会
オリンピック・パラリンピックフラッグツアー

- 2016年からの3年間に渡り、都内62区市町村、被災県、全道府県を巡回

史上初、全国の小学生による 大会マスコット選定



東京2020大会
小学生投票結果発表会

- 全国の小学生の投票によりマスコットを決定
- 都では、すべての公立小学校（小学部）計1,330校の全学級が投票に参加

ラグビーワールドカップ2019™の熱気を 東京2020大会につなげる



TOKYO RUGBY MONTH 2020

- 日本中を感動と勇気で包み込んだラグビーワールドカップ2019™のレガシーイベントを実施
- 記憶や熱気を呼び起こし、フェアプレーやノーサイドの精神など、東京のラグビー文化の定着を図るとともに、様々な経験を東京2020大会につなぐ

国民参加型でメダルを作成



都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト
都庁舎での携帯電話等受付10万個突破記念セレモニー

- 都民・国民から提供を受けた小型家電等の金属でメダルを作成
- イベントや映像を活用してPRを実施

シティ装飾で祝祭の雰囲気を演出



成田空港第1旅客ターミナル
1階到着ロビー（南・北ウィング）

- ラストマイル、空港、主要駅などで統一したデザイン装飾を実施
- 開催都市の雰囲気を創出

事前キャンプを支援



キルギス共和国
男子柔道ナショナルチーム
事前キャンプ（羽村市）

- 情報提供や個別相談対応等で各自治体の事前キャンプ誘致を支援
- 地域振興や国際交流が促進

コロナ禍でも、大会に向けた 気運醸成の機会を創出



カヌー体験会の様子



ボート体験会の様子

- 都民等が新規恒久施設を利用できる機会を提供

ボランティアマインドを東京中に広げ、人と人のつながりを大事にするまちを実現

大会を支えるボランティアの育成・確保の取組を実施



シティキャスト 共通研修の様子

- シティキャスト向けの研修を開催し、大会の概要や心構え、障害者への対応や感染症対策などボランティア活動に必要な情報を提供
- 都主催の講座、区市町村や企業・団体との連携講座を実施し、外国人おもてなし語学ボランティアを育成



シティキャスト オンライン研修の様子

- 集合型での開催に代えて、パソコンやスマートフォンから受講できるオンライン研修を実施

大会でのボランティア活動の経験を次の時代へつなげる



フィールドキャスト



シティキャスト

東京2020大会でボランティアとして実際に活動し、その経験を次につなげる

ボランティア
マインドが定着

人と人との
新たなつながり
を創出

みんなで支える
共助社会が実現

ラグビーワールドカップ2019™の経験を生かしていく



ラグビーワールドカップ2019™を通じてボランティアの運営ノウハウや知見を蓄積するとともに、東京2020大会に生かす

「新しい日常」での共助を推進

◆東京ボランティアポータルに特集コーナーを開設



家にいながらでもできる、「新しい日常」における共助を推進

ボランティア希望者と受入団体等をつなぐ プラットフォームで裾野を拡大

各団体へ申込

ボランティア団体

活動希望者

募集情報

情報発信

ボランティアレガシーネットワークシステム

「文化の祭典」を成功させた経験を、ポストコロナの新たな楽しみや喜びの創出に結実

東京2020大会へ向けた取組

東京2020大会を「文化の祭典」に

◆Tokyo Tokyo FESTIVALの展開

- ・Tokyo Tokyo FESTIVALの中核を彩る事業「Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13」をはじめ、文化の面から東京2020大会を盛り上げるための多彩なプログラムを展開
- ・多種多様なアーティストが出会い、ジャンルを超えて文化混流することで、新たな表現を創造・発信する「東京キャラバン」の実施など、東京の芸術文化の魅力を世界に発信



新たな楽しみや喜びの創出



リアルとバーチャル双方の場で楽しむ



©鈴木雅哉

文化の力で社会課題を解決



(c) 東京都交響楽団

再び人が集って祭典を楽しむ

誰もが安心して観光を楽しめ、何度でも訪れたくなる国際観光都市へと飛躍

- ◆ 招致決定以降、東京は世界有数の観光都市へと大きく飛躍。東京2020大会の機会を最大限に生かし、新型コロナを乗り越え、誰もが憧れる世界一の観光都市・東京を実現

東京2020大会へ向けたこれまでの取組

観光案内機能の充実

観光案内所・東京観光情報センター
(東京都庁、羽田空港、京成上野駅、バスタ新宿、立川)
・広域的な観光案内拠点 (外国人旅行者が多く訪れる10地域)
・観光案内窓口 (外国人旅行者が多く訪れる10地域に151か所 2020年3月末時点)

デジタルサイネージ

・高機能型観光案内標識として
多言語で観光情報を提供
(108基設置 2020年3月末時点)

観光案内標識

・ピクトグラムや多言語で表記
した観光案内標識を設置
(554基 2020年10月末時点)

無料Wi-Fi

・路上761か所で
整備 (2020年
3月末時点)

戦略的な観光PR

アイコンを活用した観光PRの強化



MICEの誘致推進と 開催都市としての魅力発信

・誘致プロモーションの強化
・参加者の満足度を高めるコンテンツの充実
・ユニークベニューの活用

東京の観光産業 は大きく成長

訪都外国人旅行者数

2019年
1,518万人
※過去最高

訪都外国人
旅行者消費額

2019年
1兆2,645億円
※過去最高

コロナ禍による 甚大な打撃

- ・国際的な移動制限
- ・外出自粛要請



コロナ禍を克服し、 一層世界を惹きつける東京へ

東京2020大会の開催

- ・東京2020大会は新型コロナ感染拡大後の初のオリンピック・パラリンピック
- ・世界の注目が集まる東京2020大会をコロナ禍を乗り越えた象徴に

ポストコロナを見据えたPR



- ・多様化する旅行者ニーズを踏まえた情報発信と観光コンテンツ開発
- ・MICE競争力の強化に向けた環境整備等

世界中の人々の東京観光に対する期待感を高め、インバウンドの回復を契機に観光産業を発展

未来を担う世代が、オリンピック・パラリンピックの精神を継承

これまでの取組

都内全ての公立学校（約2,300校）でオリンピック・パラリンピック教育を展開

<「4×4の取組」による教育活動の展開>

4つのテーマを設定し、4つのアクションを組み合わせる多彩な取組を実施



重点的に育成すべき5つの資質

- 1 ボランティアマインド
- 2 障害者理解
- 3 スポーツ志向
- 4 豊かな国際感覚
- 5 日本人としての自覚と誇り

<5つの資質を伸ばすための4つのプロジェクト>

東京ユースボランティア

発達段階に応じたボランティア活動を行い、各学校における社会奉仕の精神や思いやりの心を養う

スマイルプロジェクト

子供たちが、お互いの人格や個性についての理解を深め、思いやりの心を育成

夢・未来プロジェクト

子供たちがオリンピック等と直接交流することで、スポーツへの関心を高め、夢に向かって努力したり困難を克服したりする意欲を培う

世界ともだちプロジェクト

東京2020大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展

東京2020大会

競技観戦

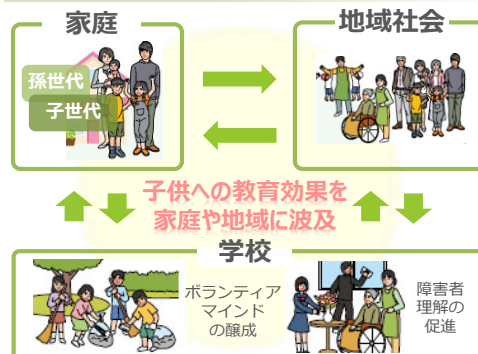


ボランティア体験



人生の糧となる
かけがえのない体験

子供たちだけでなく、大人たちにも良い影響を与え、共生・共助社会の形成につなげる



多様性への理解、国際交流、ボランティアなどの取組が、大会後も長く続く教育活動として発展

多様性と包摂性を高める様々な取組を通じて、真の共生社会を実現

女性が輝き、誰もがいきいきと活躍する社会をつくる

- ◆女性の活躍に向けた気運醸成の取組を戦略的に展開
 - ・東京都女性活躍推進大賞の贈呈や女性が輝くTOKYO懇話会の開催
- ◆男性も女性も家事・育児等を共に担えるよう社会の意識や行動を変革
 - ・男性の家事・育児参画に向けたマインドチェンジキャンペーンの展開
- ◆意思決定過程への女性の参画を促進する取組を率先して実施
 - ・専門知識や知見を持つ女性を公募するなど、審議会等の女性委員の任用を促進
- ◆女性のライフステージに応じて、きめ細かいサポートを重層的に展開
 - ・教育、就労、妊娠・出産・子育て、地域活動など、様々な分野にわたって、きめ細かいサポートを重層的に展開
- ◆スポーツにおける女性の活躍を推進
 - ・女性の身体的特徴等に配慮したアスリート育成を支援するとともに、競技団体への研修等により、女性参画の意識を醸成

外国人が安心して暮らし、参加・活躍できる環境をつくる

- ◆外国人に届く情報発信の強化
 - ・日常生活で役立つ情報や知識を紹介するガイドブック「Life in Tokyo: Your Guide」を多言語で配布
 - ・東京都外国人新型コロナ生活相談センターを設置するとともに、「東京都つながり創生財団」において、コロナ禍での多言語情報発信を強化
- ◆外国人のコミュニティ参画を後押し
 - ・町会・自治会が行う異文化交流イベントや外国人参加の防災訓練などの取組を支援
 - ・外国人が地域コミュニティに参画する上で必要な日本語教室など民間団体の取組を支援



東京2020大会を契機に人権尊重の気運を高める

- ◆「東京都オリンピック憲章にうたわれる人権尊重の理念の実現を目指す条例」を制定（2019年4月全面施行）
- ◆人権に関する普及啓発を展開し、条例の趣旨を浸透
 - ・都が設置した人権啓発の拠点「東京都人権プラザ」で特別展示を実施
 - ・「人権プラザ」をリニューアルし、体験学習の機能などを強化
 - ・幅広い年代を対象に、人権啓発イベント「ヒューマンライツ・フェスタ」を開催
 - ・コロナ差別解消に向け、東京動画や電車内広告等、様々な媒体を活用



ヒューマンライツ・フェスタ東京2019「オリンピック・パラリンピックと人権」

障害の有無に関わらず、互いに尊重しあう環境をつくる

- ◆「東京都障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例」を制定（2018年10月施行）
- ◆条例の趣旨を踏まえ、相談体制や紛争解決の仕組みを整備
 - ・障害者差別解消条例に基づき、広域支援相談員を設置
 - ・相談により解決しない場合は、公正中立な調整委員会が関与
- ◆普及啓発を展開し、条例の趣旨を浸透
 - ・ウェブサイト「ハートシティ東京」やシンポジウムの開催等による普及啓発を実施
 - ・ヘルプマークやヘルプカードについてPR



東京2020大会に向け、バリアフリー化を加速

- ◆東京2020大会におけるアクセシビリティを確保
 - ・「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」に基づき、施設・道路・駅などのハード面、心・情報などソフト面のバリアフリーを推進
 - ・「アクセシビリティ・ワークショップ」で、障害者等から直接意見を聴取し、可能な限り設計に反映
- ◆多くの人が利用しやすい宿泊環境の整備を推進
 - ・国内で初めて一般客室にバリアフリー基準を制定（2019年3月条例改正）
 - ・宿泊施設のバリアフリー化を普及啓発するためのロゴマーク



全ての人が快適な宿泊を

- 客室内の基準
 - 客室の出入り口幅は80cm以上
 - 客室内に階段又は段を設けないこと
 - 客室内のトイレ・浴室等の出入り口幅70cm以上（努力義務75cm以上）等

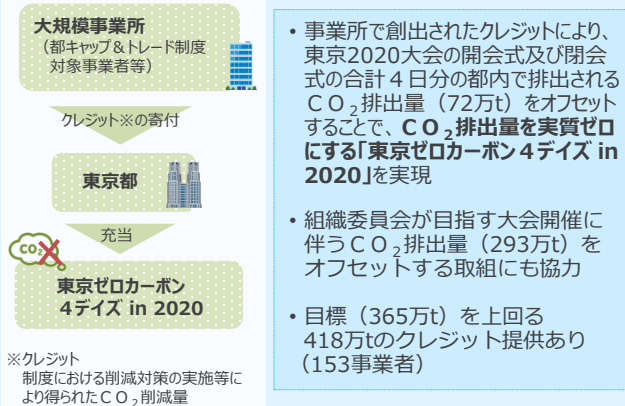
大会での再エネ・水素の活用等を契機に、ゼロエミッション東京の実現に向けた取組を加速

ゼロエミッション東京の実現に向けた取組

大会後の選手村における水素利用



開会・閉会式の4日間のCO₂排出量ゼロの取組を世界に展開（大会のオフセットにも貢献）



省エネの推進と再エネの導入拡大



持続可能な資源利用の定着

- ▶ **使い捨てプラスチック対策**
- 紙製容器等への切替えによる使い捨てプラスチックの削減及び使用済プラスチックの高度リサイクルを実施
 - 東京2020大会を契機とした持続可能な資源利用の定着化を促進



- ▶ **ごみ分別の普及促進**
- 競技会場等のゴミ分別ボックスに分別ナビゲーターを配置し、分別方法を案内
 - こうしたごみ分別の取組を大会後も実施することでリサイクル率を向上



- ▶ **ルックのアップサイクル**
- 大会で使用するルック（装飾類）について、大会後にバック等へのアップサイクルを行うことで、アップサイクルを普及促進



（装飾一例）

- ▶ **「チームもったいない」**
- 企業、NGO等と連携し、「チームもったいない」の活動を通じてもったいない意識を継続的に訴え、消費行動の変革に向けた気運を醸成



東京
2020大会

環境に配慮した
持続可能な大会のレガシーを生かし、
ゼロエミッション東京の実現へ

スムーズBizを定着させ、生産性向上などを図り、人々がいきいきと働き、活躍できる社会を実現



テレワーク、時差Bizなどの働き方改革と東京2020大会の交通混雑緩和に向けた**交通需要マネジメント（TDM）**の取組を「スムーズBiz」として一体的に推進

テレワーク

57.8%の企業で導入済(2020.6都内アンケート結果)

デジタルを活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方

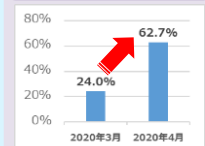
- ・都内企業や区市町村におけるテレワークを推進する取組を支援
- ・企業・団体等が新たに開設するサテライトオフィスの整備・運営を支援
- ・テレワーク体験型セミナーを都内各地で開催
- ・「テレワーク東京ルール実践企業宣言」制度を創設
- ・TOKYOテレワークアプリを活用し、周辺のサテライトオフィスの位置情報やセミナー・実践事例等の役立つ情報を発信



テレワークアプリ

コロナ禍でテレワークが飛躍的に進展

2020年4月に都内企業のテレワーク導入率が約6割に急上昇



テレワーク導入企業の約8割が継続意向

通勤電車の混雑は一時的に解消

2020年4月～5月の首都圏の混雑時間帯の鉄道利用者は同年2月中旬の4割程度に

時差Biz

1,746社・団体が参加 (2021.3.19時点)

通勤ラッシュ回避のために通勤時間をずらす働き方改革のひとつ

【鉄道事業者の取組】

- ・車内や駅構内へのポスター・動画掲出
- ・鉄道事業者によるポイント付与などのキャンペーン実施
- ・通勤時間帯における座席指定化や臨時列車の運行 など

【参加企業の取組】

- ・時差出勤やテレワーク等、鉄道混雑時間帯を避ける取組の実践
- ・同じ駅を利用する複数企業が連携して取組を実施し、混雑緩和に貢献 など



時差Bizロゴマーク

2020 TDM

51,504社・事業所・団体が参加 (2021.3.19時点)

東京2020大会時の交通混雑緩和と企業活動の両立を目指す
“2020 TDM推進プロジェクト”

- ・HPやメールマガジンで、大会に向けた準備に役立つ情報を提供
- ・企業向けの説明会を実施
- ・登録企業・団体を対象に無料の個別コンサルティングを実施
- ・個別コンサルティングでは、各社の状況に合わせた対応を提案
- ・大会に向けてテレワークや時差出勤、物流効率化などの定着や拡大、その後のレガシーとする



2020 TDM推進プロジェクト
ロゴマーク

一体的なプロモーションを展開

◆ スムーズBizの定着に向け、期間を設定し、幅広く呼びかけ

■ スムーズBiz推進期間 (2019年度)
2019年7月22日～9月6日



■ 冬のスムーズBiz実践期間 (2019年度)
2020年1月14日～1月31日



■ 冬のスムーズBiz実践期間 (2020年度)
2020年12月1日～2021年2月28日



■ 春のスムーズBiz実践期間 (2020年度)
2021年3月1日～2021年5月9日



◆ 各種イベントの実施により、スムーズBizについて強力に普及啓発



キックオフイベント



推進期間プレイベント



スムーズBiz推進大賞

◆ 東京2020大会の交通混雑緩和のために、都庁自らが取り組む内容を「都庁2020アクションプラン」として策定し、2019年度の夏に大会本番を想定し実施

- ・テレワーク・時差出勤の積極的な実施
- ・年休・夏休の計画的取得
- ・出張や現場視察、会議等の日程変更
- ・備品等の納品時期の変更
- ・ごみ等の削減
- ・都庁発注工事の調整

東京2020大会を契機に、「新しい日常」における新たなワークスタイルを定着

大会を通じて生まれた経済効果を最大限に生かし、東京ひいては日本経済の持続的発展に貢献

中小企業のビジネスチャンスの拡大

◆ 受発注取引のマッチングサイトの活用

- ・都の政策連携団体や民間企業などの様々な受発注情報を提供する「ビジネスチャンス・ナビ2020」を活用し、全国の中小企業の受注機会の拡大を支援
- ・様々な業種に精通したコーディネーターを配置し、全国の中小企業とのマッチングをサポート
- ・大会後も全国の中小企業の更なる成長・発展に貢献
- ・オンライン商談やユーザーインターフェースなど、ユーザーテストを通じて明らかになったニーズを反映し、サイトを適時改善

「ビジネスチャンス・ナビ2020」



◆ 大会施設を展示場として有効活用

- ・有明体操競技場を大会後に展示場へ改修し、中小企業等のビジネスマッチングの場として活用



有明体操競技場（後利用時）



「食」の魅力発信

◆ 東京2020大会時における東京産食材の提供

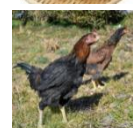
- ・東京2020大会選手村においてGAP認証等を取得した東京産食材を提供し、選手に東京の「食」をPR

◆ 多くの人々に東京産食材や日本の食文化を発信

- ・リスティング広告やPRキャンペーンHP等を活用し、東京産食材の魅力を発信
- ・飲食店等に東京産食材をサンプルとして提供し、料理の試作等、東京産食材の活用を促進
- ・鮮度保持技術の導入等により、東京産水産物の海外販路を開拓

◆ 大会の「食」のレガシーを発展させ、東京中がグルメ色となる祭典を開催

- ・多彩な食材や料理が楽しめる「食」の祭典「TOKYO GOURMET FESTIVAL（仮称）」を開催し、美食都市としてのプレゼンスを向上



新鮮な東京産食材を
選手村等で活用

TOKYO GOURMET FESTIVAL（仮称）

春 「食」のフェスティバル【2022年新設】

世界中の旅行者が東京の多彩な「食」を様々な形で楽しむ

東京に集まる
多彩で魅力的なグルメが集結

見て楽しむプログラム

観光コンテンツとして
世界中から集客

秋 東京味わいフェスタ

新鮮で高品質な東京産食材等を使った「味」を楽しむ

東京産食材の
魅力発信

地域の多彩な飲食店が集結

都内や日本各地のご当地グルメ

国産木材の利用拡大

◆ 多摩産材をはじめとした国産木材の活用

- ・大会会場等において建築物や什器に多摩産材・国産木材を活用し、日本の木材の魅力を世界へ発信
(例) 有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森公園テニス施設、選手村ビレッジプラザ、海の森水上競技場など
- ・木材の魅力発信拠点「MOCTION」において、都市やオフィスの木質化をコンセプトとした展示やセミナーを開催
- ・全国知事会と連携し、国産木材の活用をオールジャパンで促進



東京2020大会「選手村ビレッジプラザ式典」
(2020年1月)



Tokyo 2020/ Uta MUKUO
有明体操競技場



国立競技場



都市の木質化を促進

5Gやロボットなどの最先端テクノロジーを活用したスマートな大会運営を通じ、「スマート東京」の実現を加速

ストレスなくインターネットにつながり、これまでにない楽しみ方ができる環境を提供

大会を契機とした快適な通信環境の実現

- 都営競技施設等で約2,000か所の無料Wi-Fiアクセスポイントを整備
- 高密度Wi-Fiや5Gなど最先端のデジタルインフラを導入し、様々な視点からの競技映像、選手・試合の詳細なデータを掛け合わせた映像などの新しい形の楽しみ方を提供
- 「TOKYO FREE Wi-Fi」をはじめとする無料Wi-Fiスポットを都内各地に整備
- オリンピック・パラリンピック初の商用5Gを提供（通信キャリア）

5Gショーケーシング

- 東京2020大会ライブサイト代々木公園会場における5Gを活用した会場運営
 - ・ ライブサイト代々木公園会場内への5G通信環境仮設整備
 - ・ 5G通信環境を活用した会場運営強化
 - ・ 大会パートナーとの連携による5G普及啓発に向けたコンテンツ実施



ライブサイト(イメージ)

テクノロジーの活用（ロボット、自動運転等）

ロボット

- 「Tokyo Robot Collection」を実施し、ロボットを活用した新しい社会実装モデルをショーケース化
 - <ショーケーシングの例>
 - ・ 宿泊療養施設の感染症対策に向けた実証
 - ・ 都市型複合施設のニューノーマル実現に向けた実証



客室への物資搬送ロボット



搬送ロボットへ物資を設置するロボット



AIによるコミュニケーションロボット
(多言語対応)



接客等に活用可能な遠隔操作ロボット

自動運転

- 自動運転の社会実装に向けた実証実験や機運醸成事業を実施

<これまでの実証実験の例>

- ・ 5Gを活用した自動運転タクシーの事業化に向けた運行管理実証（西新宿）



- 都民生活や都市全体に最先端テクノロジーを駆使し、持続可能でスマートなQOLの高い都市に
- 東京・日本の高度なテクノロジーが世界に発信され、プレゼンスが向上



大会を契機に被災地の復興の姿を世界に届け、被災地との絆を次代に引き継ぐ

スポーツを通じた交流

◆被災地と東京を結ぶ縦断リレーを実施



東日本大震災の被災地と東京を
ランニングと自転車のリレー形式
でつなぐイベントを実施

未来（あした）への道1000km
縦断リレー2019グランドゴール

◆被災県ヘトッパースリートを派遣



被災県ヘトッパースリートを派遣し、
各県ごとのニーズや地域の実情に
応じたスポーツプログラムを実施

アスリート派遣事業

◆被災県の子供たち等を都のスポーツ大会等に招待



東京国際ユース（U-14）サッカー大会

- 被災県の子供たちを東京のスポーツイベント等に招待
- 東京国際ユースサッカー大会等に被災県の選手等を招待し、海外選手との交流試合等を実施

◆大会に向けた気運醸成で被災地を活性化



東京2020ライブサイト in 2016 -リオから東京へ-
（宮城会場）

被災地でライブサイトを実施し、大会の盛り
上げを伝える



東京マラソン（10km） ©東京マラソン財団

- 東京マラソンに被災県の高校生を招待し、10kmレースに出場
- 卓球やテニスなどのスポーツの国際大会に、被災県の子供たちを観戦招待



被災地の子供たちを
東京2020大会の観戦に招待し、大会の感
動を肌で感じていた
だく

教育・文化を通じた交流

◆オリンピック・パラリンピック教育における交流



- 被災地等と連携し、パラスポーツ体験活動を実施
- 熊本地震被災地への募金活動や物資の支援等を実施

◆芸術文化活動を通じた交流



被災地域のアートNPO等の団体や
コーディネーターと連携し、様々な
分野の人々との交流プロセスを重視
したアートプログラムを実施

芸術文化を活用した被災地支援事業
「ART SUPPORT TOHOKU-TOKYO」

被災地が復興する姿を世界に発信

◆復興モニュメントを制作

- 被災地の仮設住宅から出た廃材アルミを活用した展示物を制作
- 被災地の中高生らがアスリート等へ向けたメッセージ等を掲載し、大会期間中に都内大会関連施設へ展示し、展示終了後は被災県に移設



復興モニュメント

◆復興祈念植樹を実施

有明アリーナにおいて、被災地の復興のシンボルとして、各県のシンボルツリーの植樹を実施

◆復興支援映像を制作・発信

大震災から立ち直りつつある日本の姿を世界へ示すため、
復興支援映像を発信



「2020年。東京と
東北で会いましょう。」



「2020年。東京と
熊本で会いましょう。」



「2020年と、その先の未来へ
～世界中の方々へ感謝を込めて～」

◆「ふくしま⇄東京キャンペーン」を展開

風評被害払しょくのため、区市町村や鉄道事業者・金融機関などの民間団体等と連携して、都内各地で福島県産品の販売と観光PRを継続的に支援

